



1年前にも質問したが 庁舎はどうするのか

藤原充博 議員

町長 総合計画策定の中で
議論していただきたい



問 奥出雲町の教員の数や、通勤の状況は。

答 植田教育総務課長
今年度小学校105名、中学校43名、合計148名です。自宅が町内の方は56名、町住宅、教員住宅等は20名、町外から通勤は72名で約49%です。

問 国の教育方針がゆとり教育から学力中心に変わり、教科書も変わると伺っているが、その対応策や教育方針はどうなるか。

答 安部教育長
学力中心という話ですが、国の方針はゆとり教育から、より一層生きる力をはぐくむ教育へ、と

言っております。学習指導要領も改訂され、学校では教員の教科書のとらえ方を、個々の児童生徒の理解の程度に応じた指導を充実し、児童生徒が興味や関心を持って読み進めるようにする。

また家庭でも主体的に自学自習ができるようなとらえ方に転換するよう指導します。

学校においては、児童生徒の望ましい成長を保障する観点から、すべての教育活動を見直し、過重な負担のない適正な教育活動が展開されるよう検討させ、児童生徒一人一人に基礎基本となる学習内容を確かに定着するように指導します。

教育委員会としても、家庭学習支援塾などを充実するなど地域で支える体制の整備を考えてます。

問 児童数が減少し、5年後には複式学級が多く発生するが、競い合って学ぶのも大事では？

答 安部教育長
ある程度の限度があるが少人数でもお互い磨き合う、高め合うことを大事に学習や学校での生活ができるように指導して

いきたいと考えています。

問 しかし保護者は非常に不安に思っております。地域は、学校がなくなっているといけない何とか残して欲しい。本当に難しい問題です。すぐに、合併する、複式学級をなくするのは一年や二年ではなりません。

時間をかけて話し合っていく必要があると思います。

合併の記念講演の時、藤岡先生が「仁多は昔から教育が大変に盛んなところだ」との発言がありました様に、当町は県下でも名の知れた教育熱心な土地柄であります。町内の小学校が複式学級ばかりにならないうちに、早急に手を打つことが大事ではないでしょうか。それでは続いて庁舎の件であります。

合併債が利用できるのは今年度を除くとあと4年しかないが、町の心臓にあたる庁舎建設には、性急に事を進めなくとも建設に向けての道しるべとなる行程表や、大まかな予算規模とか町民と話し合う時期ではないか、今後の計画、予算規模、

住民説明会の予定を伺う。
答 現在のところ具体的な計画は何ももっていない。

庁舎建設についての必要性は十分あるという事で、町内のコンセンサスはできていると思います。

仁多庁舎は昭和39年の建設で築後40数年が経過し、老朽化、耐震補強などの問題もあります。

横田庁舎との、機能分担等を踏まえながら、有利な合併特例債での建設が可能である平成26年度中に事業が完了する様に、今後、行程表を検討したいと思っております。

問 是非とも、9月にも予算を組んで欲しい。

答 9月補正との話ですが、本年度は、奥出雲町の総合計画の策定をするという事で、その準備を始めています。総合計画を策定していくなかで庁舎建設についても、しっかりと議論していただき、その中に盛り込まれれば23年度以降、具体的な取り組みについて予算計上をお願いするようになると思います。